

令和5年1月1日

# 敬愛短大附属幼稚園だより 1月号

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

さて、今年の干支は「兎」。ウサギといえばピョンピョン跳ねる動物ですね。したがって兎年は「飛躍と向上の年」と言われています。新年の誓いは立てられましたでしょうか。漫然と新年を迎えるより、「今年是这样生きるぞ」という具体的な目標が定まって良いのではないのでしょうか。

このような元旦の誓いを考えている際に思い出した言葉がありました。小学校低学年の時に叔父から空手道を学び、1973年（昭和48年）千葉県に総本部を置く「拳正道（けんせいどう）」と出会いました。<http://kenseido.net/>「拳」は“こぶし”ではなくて手を表し、手の正しい使い方を学ぶことにつながります。以下に、このことにつながる様々な考えを記載してみました。

## 【世の中が一番アクティブだったのは変化の時代】

良いことではないが、これまで時代が変わるのはいつの世も戦乱の時代でした。そうした時代は人々の心が不安定になり、権力闘争が激化して秩序が乱れ、互いが持つものを力で奪い合う時代でした。現代社会でも世界では常に同様のことが起きています。こうした世界では力を持たない一般の人々が意見を述べる事も出来ずに常に権力を有したのものからの一方的な支配によって財産等を搾取されることが常でした。

しかし、見方を変えると、世の中が大きく変化したのもそうした出来事が起こった時代でした。いつの世も様々な人の欲望は争いを生み、力の強弱が生まれ、それが多くの人々を不幸にしてきました。

仏教の考え方ですが、大みそかの除夜の鐘は誰もが持つ人の108の煩悩を表しており、その鐘の音を聞きながら一年間の自分の行いを振り返って悔い改めるものとされています。こうしたことは仏教に限らずキリスト教を始め様々な宗教により人々の苦悩が救われるために長い年月を経て定着したものと思われま。

国家という巨大な権力集団は一度でもその方向性を間違えると取り返しのつかない不幸な世の中を生み出してしまいます。民主主義社会では選挙という方法で個人の意見を政治の世界に反映する数少ない機会です。本年度も国政選挙があるかもしれないので棄権することのないように、そして民主主義の正当な権利として小さな一票であっても尊重される社会であることを誇りとして生活することが大切です。

政治家の方は常に謙虚で、自己の保身のためにとならぬように努め、選ばれた立場であるということ深く心に刻んで人々のために一生懸命に働いてほしいものです。しかし、この“選ばれた”ということを利用して不当な圧力を行う政治家も一部存在することも事実です。大きな権力を有する者ほど謙虚に自らを律していかなくてはならないものです。

このような文章を書きながら自分の108の煩悩と照らし合わせて、昨年の反省を今年に活かして行くために自制の意味で文章にしてみました。

一方、混乱の場が全て悪いわけではなくて、変わるチャンスと捉えることもできます。何事も起こらないように毎年、同じことを同じように行うのでは自他共に成長はありません。より良く変えていくことも大切です。保守的という言葉が適切かどうかはわかりませんが、教育の世界は変わろうとしないことの方が多いうにも思います。“不易流行”と言うように、教育の世界でも時代に沿った変化を追求して行くことが今後益々必要と考えます。かつて私が行っていた拳正道という武道に拳正訓（[拳正訓 \(kenseido-masuo.com\)](http://kenseido-masuo.com)）と言う練習初めに唱和するものの中の一文に「自他共に共栄浸透せしめんことを誓いつつ・・・」という言葉があります。平和な世の中にして行くためには自分さえよければという事を正すための言葉です。他の人のためになるような考え方でなければ共栄浸透することはできません。年頭に当たって改めて拳正訓を思い起こしました。

（園長 杉山清志）